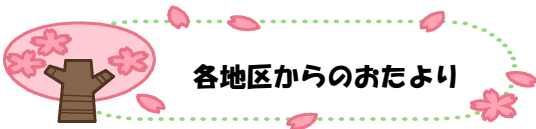


大事協だより

大島地区公立小・中学校

事務職員協会研修部

第36号 2012年3月5日発行



各地区からのおたより

今回の原稿は、①与論町②喜界町③徳之島町からいただきました。ありがとうございます。次号は、来年度6月発行予定です。

各市町村の研修会での様子、様々な取り組み、写真、趣味の原稿等どしどしお寄せください。

①与論町事務職員会

与論小・中学校共同実施について
与論中学校事務職員 和田 賢

平成23年度7月より、与論町において共同実施がスタートしました。

大島地区においては初の試みであり、試行錯誤の毎日ですが、周囲からの温かい支援の下、日々研鑽に励んでいるところです。

現在、共同実施において注力しているのが、『若年経験者支援』『質の高い事務の適正化』です。大島地区においては新規採用者や期限付き職員の比率が高く、共同実施によるサポート体制を構築することで、『若年経験者のスキルアップ』『事務処理のミスの抑制』を図ることに繋がるとの考えからです。その他、施設設備の管理運営におきまして、1校ごとの対処だと、不備を見落としてしまったり、予算的な問題から対応できなかった事例に対し、4校共同で行うことによって、複数での調査体制を作り上げ、共同で発注することで、予算圧縮を果たすことで、児童・生徒の安全を確保しつつ、コスト削減を達成しております。

つい先日、大和村の3名の事務職員の先生方が、本島に来訪され、共同実施について議論を重ねました。共同実施の基本フォーマットを踏まえつつ、その地域にあった運営をどのように構築していくのかがポイントであると思いました。

②喜界町事務職員会

喜界町立第一中学校 阿久根 健太

みなさんこんにちは。喜界町事務職員会です。最近喜界町がいろいろな番組で紹介されているのをご存知でしょうか。先日は99の岡村さんが喜界のすばらしさをテレビで伝えてくださいました。また珍百景でも喜界が紹介され、見事登録されました！

そんな賑わいを見せる喜界町ですが、私たち事務職員会では「学校再編」という非常にヘビーな話題で賑わっております…。

平成24年度より、小学校9校が2校に、中学校3校が1校となり、事務職員も10名から3名へと非常に寂しくなっています。

学校再編を前に地区内外へと視察に伺いました。大変勉強になりましたが、どの地区も年度を跨いだ段階的な再編で、喜界町が小中いっぺんに再編することをお伝えすると「大丈夫、それ？」という激励？の言葉をかけてくださいました…。その節は本当に世話になりました。

さて、ヘビーな話題とは言え、そこは前向きな喜界町事務職員会。この1年全員の力を合わせて作業を進め、備品や表簿、引継などの業務も何とか落ち着いてきたところです。若手が多い喜界町ですが、逆にその若々しい力のおかげでここまでやってこられたように思います。部長が頼りなかったことも各自が頑張るきっかけを与えたのではないのでしょうか（泣）

このメンバーで仕事をするのもあと僅かです。気を遣わずに話せる大好きなメンバーなので別れが名残惜しいですが、終わりではなく始まりに向かうつもりで、残り僅かな時間を全員で乗り切っていこうと思います。

最後に、再編や統合を経験された先生方のご助言をお待ちしておりますので、何卒よろしく願いいたします。



写真：瀬戸内町への視察の一場面

③徳之島町事務職員会

こんにちは、徳之島町事務職員会です。私達は「学校事務の効率化・標準化」を研修テーマに掲げ、新任者を迎えて10人で和気あいあいと頑張っています。(年末の忘年会は、バドミントン大会も企画し、スポーツでも交流を深めてみました。夜のお酒はいつも以上においしかったです…おすすめですよ)。

年齢構成が大変若く、「初任地が徳之島町」という方が半分以上の為、研修会以外にも、日々学校間で質問電話が飛び交っています。質問相談の中身は、事務処理のことはもちろんですが、学校の中で事務職員とはどのような立ち位置で児童生徒に関わっていいのか等、「事務職員とは何か」を考えさせる声も聞こえてきます。25年度の共同実施県下一斉導入を目前に控え、改めて学校の中で事務職員としての存在意義を考えると…経験年数は違いますが、それぞれの立場で乗り越えてきたこと、今乗り越える努力をしていること等、語り合っ、目の前にある課題に取り組んでいるところです。

今年度は、共同実施への意識も絡めて相互自主検査に挑戦してみた学校もあります。このこと自体に色々な考え方や想いはあると思いますが、複数で事務処理・照合・確認を行う安心感というものを実感し、やはり町内での協力体制は独人制の事務職員にとって重要だと感じた方が多かったようです。年度末まであとわずかになりましたが、それぞれが向上し、学校の中で、自信を持って校務にあたることができるよう、協力して頑張りたいと思います。どうぞ、よろしくお願ひします。

(文責：山小・小田)



新規採用職員の方々から

採用されておおよそ1年の方々から、原稿をお寄せいただきました。ありがとうございます。

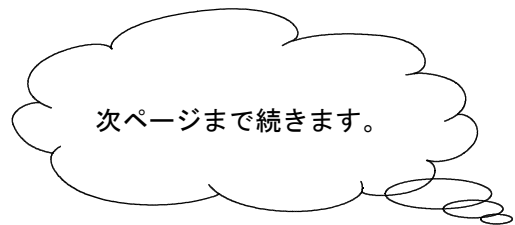
「4月から現在まで振り返って」
与論町立与論小学校 小川 大輔

昨年4月に与論小学校に赴任し、早9ヶ月が経ちました。何も分からなかった赴任当初に比べたら仕事にも大分慣れ、また、2学期まで無事に乗り切ることができてほっとしているところです。

これまでのことを振り返ると、学校事務に関することはもちろんのこと、学校行事や地域行事など様々なことがあり、どれも新鮮で、刺激に溢れた充実の日々を過ごすことができていたと思います。そのように実感できるのも、学校の先生方、事務職の先輩方、地域の方々のサポート・協力があったことだと思います。支えてくださった方々には本当に感謝しています。

仕事をしていく中で課題も多々見つかりました。「効果的なメモ・ファイリング」はその一つです。メモすることは重要なことですが、自分は何でもかんでも必死にメモしていたため、それがかえって仕事の非効率化につながり、また、どこにメモしていたかも分からなくなっていました。ファイリングに関しても、どこにどの文書を保管したか分からなくなることがありました。この課題は仕事の効率・適正化につながる重要なものだと思います、いろいろと試行錯誤しているところです。

まだまだ未熟者ゆえ課題は多々ありますが、一つ一つ確実に克服していき、将来、子どもたち、先生方、地域の方々に信頼され、学校の屋台骨となる事務職員になれればと思っています。残り3ヶ月で1年。新採1年目を後悔することがないように、来年につながるように、3学期も全力で頑張ります。



< 1年間を振り返って >

徳之島町立母間小学校 中尾 友彦

新規採用事務職員として働き、もうすぐ1年が経過します。その中で最も印象に残っているのが、赴任当初の仕事の忙しさです。私は夜間制高校出身なので、高校時代からアルバイト等をし、様々な仕事を行ってきました。しかし事務という仕事は初めてで、赴任当初は全く要領もつかめず、おまけに年間を通じ最も忙しい時期からのスタートだったので、正直打ち砕かれました。

しかし、そのような状況の中でなんとか仕事をこなせていけたのは、周りの先輩方のサポートがあったからだと感じます。どんな些細なことを質問にも丁寧に回答してくださり、そしてなぜそのような事務を行うのかということ、法的根拠をふまえながら教えていただき、いつもなるほどと思いながら話を聞いていました。同時に、自分がこれから学校事務を行う中で、赤本などを参考に、法的根拠等を考えて仕事を行わなければいけないんだなあとも感じました。まだまだ知識も乏しく未熟ではありますが、研修等を通じ、成長していきたいと思えます。これからも御指導のほどよろしくお願ひいたします。

< 1年間を振り返って >

喜界町立上嘉鉄小学校 尾 景子

事務職員として勤務を始めてから、もうすぐ1年が経とうとしています。振り返ってみると、毎日が充実していて、あっという間だったように思います。

勤務初日に校長先生から私を紹介された児童の中には、名字が珍しい上に「先生」を付けると呼びにくいと感じた児童もいて「尾先生・・景子先生・・尾景子先生・・」と呼び方に迷ってる様子もありました。今でも、3分の1ほどの児童が「尾景子先生」とフルネームで呼んでくれています。そんな子供たちから元気とパワーをもらいながら、先生方からは温かく優しいご指導を頂きながら、毎日を過ごしています。

そして、何も分からない私が事務職員としてここまでやって来れたのは、町内の事務職員の先生方のサポートがあったからこそです。どんな些細な疑問や質問にも、優しく丁寧に分かるまで教えてくれたり、難しい言葉を分かりやすく噛み砕き、初心者用に資料まで作成してくださったりと。

また、連絡を密にしていることで事務職員の先生方の仲もとても良く、色んな角度からサポートしていただいています。心強いサポート、頼れる先生方、本当に感謝しています。

今年度もあとわずかです。できる限りのことを吸収して、出来る限りを尽くし、残りの限られた時間を楽しく笑顔で過ごしていきたいです。

< 1年間を振り返って >

喜界町立坂嶺小学校 久保 孝介

期限付事務職員として、坂嶺小学校に勤務させていただいてから、早くも8ヶ月が経ちました。この8ヶ月間はとても充実していて、自分自身を大きく成長させたものだと思っています。

当初、学校に勤務することは、楽しみであり、それ以上に不安でした。

学校の事務職員がどのような仕事をするのか、就業経験もなく社会人として1年目である私が、学校に1名しかいない事務職員としてなにができるのか、さらに本校の事務職員は滝川小学校の兼務も担当していることなど、さまざまな不安を抱えてこの仕事をスタートさせたことを覚えています。

しかし、実際に勤務すると、近隣校の事務職員の先生から直接指導してもらう他、電話やメール等で多くの支援をしていただきました。おかげで、学校の事務職員として仕事に徐々に慣れていくことができたと思います。

また、近隣校の先生のみならず、定期的に行われる事務職員研修会、ブロック別研修で喜界町内すべての事務職員がサポートしてくれるなど、新任事務職員への支援体制が充実していることに多く助けられました。

徐々に仕事に慣れることで、時間にも余裕ができ休み時間など児童と過ごす時間が多くなることで、元気をもらい仕事に取り組むことができるようになりました。

小規模校ながら、児童一人一人が運動会や学習発表会など取り組む姿勢には、多くの感動をもらい、刺激となっています。

また、本校の職員の方々も、学校に関すること、社会人としても多く指導していただきました。

さらに、小規模校ということもあり、校内行事等では多くの保護者や地域の方々の協力が仕事の支えになりました。

喜界町は、来年度から、小学校2校・中学校1校になります。その中で学校再編に関わる事務等、貴重な経験もさせていただきました。

残り少ない期間ではありますが、本校の児童・職員がより良い環境で、過ごせるように努めたいと思えます。





ご退職される方々から

ご退職される先生方からメッセージをいただきました。ありがとうございます。お疲れ様でした。

教育現場と家族・地域を繋ぐ

天城小学校 幸多勝弘

1975（昭和50）年2月1日付けで私は沖永良部島上城小学校に赴任した。今春3月31日37年と2ヶ月で定年退職を迎える

▲関西の大学を卒業し、長男であることから先ず「島に帰る」ことを余儀なくされた。大学では農学部の農芸化学科で農薬化学を専攻した。島の就職は「臨時役場職員、伊仙中学校司書補」からのスタート。図書の分類やレタリング、部活動指導をした。

▲そのときの校長先生から「学校事務職員」という試験があることを知らされ、締め切りぎりぎりに願書を取り寄せた。これに合格し年度途中、大島教育事務局で面接2月1日赴任した。そろばんの代わりに当時では高価な電卓（5000円）を購入し、母からももらった印鑑（今も使っている）を手に学校事務職員がスタートした。新採のため隣の田皆中学校 故泉前徳先生の机の脇に座り、給与事務を覚えた。沖永良部地区で二番目に（昭和50年7月）西目スポーツ少年団を結成。寒い冬は「火の用心！」と子ども達で集落を回った。夜は毎晩青年団と一緒に、バレーボールに野球、盆踊り、敬老会など地域活動に明け暮れた。

▲地域活動が大好きで子ども達や青年、老人クラブと幅広く交流していた。この姿勢は今現在も続き、ライフワークだと思っている。

▲本務は島内で研修し、ノウハウを共有し「勤務処理」の事例集も作っていた。また当時管外研修には大島教育事務局の総務課主事も参加した。総務課は私たちの良き理解者であり仲間という思いがあった。

▲和泊中学校に転勤し、「事務屋」という自らの立場を改めて認識した。同時に環境整備の面から「事務室」設置の要求が群島内で起きた。

▲1年目ソフトテニス部の顧問を依頼された。ルールを覚え、野球式ノックで大島地区で個人3位、県大会出場。2年目に卓球部を創設。旧給食室に生コンを入れ、技術科N先生と夜中水平になるように左官のまねごとをした。町卓球連携の協力でコンパネを張り卓球部室が完成！大島地区で団体2位、個人戦優勝、県大会出場。

▲長男長女次男が誕生し、生活は苦しかったが隣人にも恵まれ、今でも「エラブのじいちゃんばあちゃん」と呼び行き来している。

▲学校現場では「夏冬休みの友」を巡って教員と校長、教育行政が敵対関係。PTAをも巻き込んだ最悪の状態だった。そのような中、組合専従として鹿教組奄美支部へ。学校に働く全ての人の「相談」「問題解決」、LL牛乳から「本土並み牛乳」への地域との共闘。平和を守る運動。「校則の見直し」。義務教育費国庫負担法からの学校事務・栄養職員の適用除外阻止、高校全入運動、島差別の実態と克服など奄美、島に対する偏見差別をなくする運動に取り組みしました。

▲再び学校に帰って音楽のF先生と共に「うた声サークル」を作り、家族ぐるみで「与論の旅」などしました。このころになると「夏冬休みの友」問題も解決し、PTAとも仲良く「こどもたちのために」教育活動が推進された。

▲義父が病気のため余命1年となり徳之島へ。亀津中学校に9年間。目当てのないフラストレーション、中学生の心に入り、卓球部で汗を流し、身体的にハンディのある生徒に卓球部加入を強く勧めた。彼らの優しさが荒れる学校を変えていった。教室に入らない生徒と語った。教員と対峙する間に割って入った。県大会で男子が3位。九州大会出場。この子等も今は人の親となった。

▲ある日、生徒が泣きじゃくって我が家を訪れたそう。妻に「S先輩が僕に部活を止めろと言った・・・」。その夜妻は私に「お父さん、子どもはいつまでも子どもじゃないよ・・・人として見て、認めてあげてね」

▲ハンディのあったY君が昨年亡くなった、福岡で。1年の契約期間が終わって「島に帰ってきていいんだよ」という親の声に「ウン、わかった」と言いながら彼は福岡で再就職していた。亡くなった時、母親が遺品を整理したら日記に「20社目の採用試験で受かった」と記され、まだまだ履歴書が残っていたそう。ネバーギブアップの生き様に感動した。

▲伊仙中学校に転勤。新一年生にカリスマ性を発揮し目標を高く（全国一位の技術練習方法）した。女子は7年在職期間に大島地区6連覇。県で優勝、全国大会出場。

▲祖父の闘牛が全島一「横綱」となった翌日、大島地区高校総体卓球に出場するためバイクでバス停に向かった伊仙中卒（卓球部）のN君はダンプカーと正面衝突、他界した。もうひとりI中学校に転校したR君もバイク事故で帰らぬ人となった。不憫である。初任校のK子も亡くなった、と聞いた。お父さんは米軍兵だった。

▲最後の勤務地となった天城小学校。天城小スポ少卓球部は天城中卓球部との合同練習ということでスタートした。二年目はT氏に全権委譲。大島地区で小中とも好成績を残している。

▲「徳之島の歴史・文化・自然遊歩記」ブログを始めた。これまで多くの資料を発信できなかったストレスが解消。S先輩と奄美の歴史を学習。前田長英氏の立ち位置から歴史を再検証。

▲2009年は薩摩の奄美・琉球侵攻400年という節目。シンポジウムを徳之島町で開催。パネラーとして参加。「未来への道しるべ」をテーマとし、島津斉彬の近代化政策を「光」とするならば奄美の民衆が黒糖地獄を生き抜いた陰が我々の「誇り」である、と力説

▲徳之島高校のPTA会長を二期、4年。平成7年体育祭中止となり、南日本新聞の三面記事になった。PTAスポーツ大会を実施し、親と高校、教師の敷居の高さ解消に尽力。

▲人のつながりを点から線、線から面へと。米軍基地移設反対闘争 事務局長。「仕掛け」が必要。温度差解消浮いちゃ行けない、温度差は当たり前、と小さな支援にも感謝。

▲奄同教事務局次長、徳之島三町人権同和教育研究協議会役員会長5年では「島をほこれるこどもたちを育む」ことをテーマとして歴史・文化・自然、闘牛文化をとおして教職員やPTAと関わった。その場所に立って検証する。最近はより身近な「町歩き」に近づいてきた。

▲桜百本植樹「あすなろ会」会長

▲仕事は当たり前のこと、人として繋がりたい。徳之島療育研究会の一員として学習を深め、社会にあってはノーマライゼーション、学校ではインクルージョン。個々に必要な支援体制を充実するよう環境整備、さらには就労まで視野に入れ退職後も取り組みたいと思う。

▲最後に私は初任校で地元の青年団に「俺をよそ者扱いするな！例え三年であっても今はここが私のふるさとだ、」と口げんかしたら、翌日から副団長であった。みなさん、「あなたが住んでいるところがあなたのふるさとです」「百花繚乱花それぞれ人それぞれ、みんなちがってみんないい」頑張ってください！



うかげさま ありょうた

～会員の皆さん永い間
支えてくれてありがとうございました。～

奄美市立大川小中学校 泉 一

月日のたつのは早いもので、3月に定年を迎えることになりました。のんきな性格のためか、この時期になってもまだ実感が湧いてきません。

これまでの事務職員生活を振り返ってみるといろんなことがありました。その一つに事務（機器）の変化との戦いだったなーという思いがあります。

新採の時、「学校事務」がどんな仕事をするのかまったく知らないまま職場に入った私は、隣の学校の先輩事務職員から「ソロバンができなくては・・・。」と言われ、小学校の時以来のソロバンの練習に夜な夜な励み、やっと人並みにできるようになった頃には「電卓」がはやり始め、そしてパソコンと（パソコンソフト「ロータス123」というのがあったなー。）めまぐるしく進歩していく事務機器を前に必死に取り組んで来た毎日だった気がします。鉄筆片手にガリ版で印刷物を作っていたのが、ボールペン原紙、ファックス原紙、ワープロ、パソコンと変わって行き、新しい機器が入ってくるたびに、今までの苦労はなんだったのかなーと思ったことです。これからも続くでしょうが・・・。

又、新採の頃、本地区は学校に電話すらないところも多くあり、近隣の事務職員からの支援を受けることもままならず、志半ばでやめていった仲間もいた中で、定年を迎えることができるのも良き先輩や事務職員仲間に恵まれたおかげだと感謝しています。

大事協の役員も、たまたま出席した発足準備会で最年長だったため、「つなぎの会長」としてなったはずなのが、定年まで引き受けることになってしまいました。これも、会員の皆さんや支えてくれた多くの方々のおかげ（おかげ）です。

「水や山うかげ、人（ちゅ）や世間うかげ」人との繋がりの大切さを改めて感じ、これからも大事にしていきたいと思います。大事協の皆さんこれからもよろしくお願いします。ありがとうございました。

